

宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311代
http://www.munakata-taisha.or.jp/
定価 一年送料共 1000円

神宝館特別展の御案内

沖ノ島物語「海の正倉院」 沖ノ島大宝展

沖ノ島物語「海の正倉院」沖ノ島大宝展は、世界の文化が集積する到達点でした。それを吟味し、固有の文化に昇華させた先人の想いは、我々の中に脈々と受け継がれているはず。古代の九州はまさに世界に向けた窓口でありました。そして玄界灘は日本と朝鮮半島、アジア大陸とを結ぶ交通の要衝でもありました。そんな地理的条件を背景に、宗像三女神は我が国の創建時から御神威を発揚されると共に、朝野の篤い崇敬を受けてまいりました。特に沖津宮の鎮座された「沖ノ島」での祈りは、国家の命運をかけた大陸との交流を受けたものでした。そんな当時の熱帯を髣髴とイメージすることが出来る数々の精巧絢爛たる御神宝が、今あらためて輝きを増し世界へと発信する時を迎えました。沖ノ島は宗像をはじめ博多、苅岐、対馬などと同距離とする玄界灘のほぼ中央に位置します。この周囲四キロの絶海の孤島で、四世紀後半から一〇世紀初頭にかけて行われた古代国家祭祀の実態が、昭和二十九年から四十六年までの三次に亘る学術調査で明らかになりました。それはまさに驚愕に値するものであり、国内はもとより世界に衝撃を与えました。出土した約十二万

点の殆どが国宝・重要文化財に指定され、「海の正倉院」と称される由縁です。四世紀の彼方からアジア大陸との交流史を物語る沖ノ島は、なにゆえ航海のシンボルとなり、「神宿る島」として君臨し続けてきたのでしょうか。沖ノ島を中心に宗像から朝鮮半島に繋がる海の道はシルクロードから遙か西アジアにまで到達致します。この壮大なロマンにより、早稲田大学吉村作治教授は「沖ノ島は日本初の複合世界遺産の可能性有り」と指摘、これを実行委員会を結成、福岡大学小田富士雄教授のご指導で、宗像市と玄海町との合併により誕生した、新宗像市」の記念事業の一つとして、今回「海の正倉院 沖ノ島大宝展」開催の運びとなりました。この特別展により、沖ノ島の歴史的作用をより理解していただくだけではなく、愛する郷土に思いを馳せ、ほとばしる情熱を結集していただくステップになればと念じております。

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店 福岡市博多区東公園一丁目一〇番八号
電話 福岡 093-651-1945 五六番
本店 京都市下京区油小路四条北入 900番
電話 京都 075-343-3134 (代) 四番
電話 京都 075-343-3134 (代) 四番

木組の家
匠の技
総合建設業株式会社 弘江組
事務所 81406 福岡県宗像市福元二〇二五
〒81406 電話 (0940) 311-2567

大宝展の見所

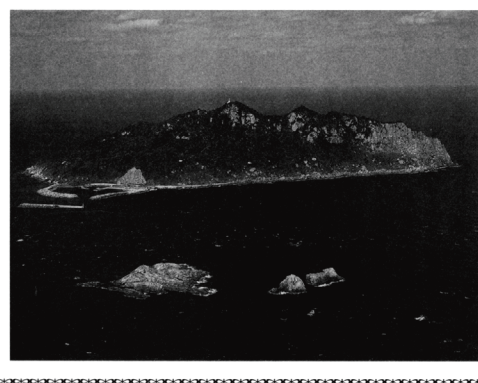
- ・四〜一〇世紀に大和朝廷が国を挙げて行った祭祀を物語る、豪華な御神宝を複製ではなく実物でみることが出来ます。
- ・神宝館の一・二階を使って、四世紀後半から一〇世紀初頭までの約六〇〇年間の「時代散歩」をしていただきます。
- ・平成十三年当大社神庫から発見され、この五月二十九日の文部科学省の官報にて国宝・重要文化財に追加指定された沖ノ島第一・二次の学術調査時発掘分の御神宝（金銅製雲珠、玉類、辻金具など二・三六点）を初公開いたします。
- ・宗像市・郡内の貴重な文化財を借用して、沖ノ島と当時の宗像地域の関わりを説明します。



- 〈主な展示品〉
- ・金指輪
 - ・金銅製龍頭
 - ・金銅製香葉
 - ・金銅製雲珠
 - ・カット・ガラス碗片
 - ・真珠玉
 - ・金銅製雛型織機
 - ・奈良三彩小壺

沖ノ島

玄界灘のほぼ中央に位置し、原生林に覆われた周囲四キロの孤島。島の中腹に人の五倍はあるとかという巨石磐境が点在し、四〜十世紀初頭までの大和朝廷による国家規模の古代祭祀遺跡（二十三ヶ所）がある。現在巨岩と巨岩に挟まれるように、宗像大社沖津宮の御社殿があり、宗像三女神の「柱」田



今から百五十年ほど前、紀伊半島一帯に大地震が発生した。その時、和歌山県田村の浜口梧陵は、大津波を予測し、村人を救う手段として稲むら（稲束を積み重ねたもの）に火を放った。村人達は大切な稲むらが燃えるのを発見し駆けつけた事により、津波より逃れられた。この一瞬の判断力・決断力が多くの命を救った。



この話は、小泉八雲の「正ける神」として世界的に知られ、又「稲むらの火」として教科書に掲載されていたが、今は、イデオロギーの枠の中に閉じ込められ、我々の祖先の知力等を知る機会が少なくなりました。

戦後は、欧米の物質文化に追いつこうと、伝統文化を捨てながら、又合理主義的思考を増幅させ豊かなものを手に入れてきた。このことは人間として自然に対する畏敬の念を退化させてきた様にも思われる。

現代は、価値観が大きく変わり、情報が氾濫し、個人の持つ価値観はさまざまに「稲むらの火」の時代のように、人々が一つにまとまる事が難しくなっている。この時代、地震等の天災が人災に大きく広がる危険がある。

森羅万象に神を感じ、祭りをし、自然と共に生きてきた祖先の遺伝子の矚りが、必要な時かもしれない。(H・W)

沖ノ島物語

●宗像市合併記念●



天の海、古の道。今に続く。

「海の正倉院」 沖ノ島大宝展

宗像大社・神宝館
福岡県宗像市田島2331(福元) 電話 0940-62-1311(代)

絶海の孤島・沖ノ島に、なぜ12万点もの国宝・重文が存在したのか。はるか遠い歴史の中に封印されてきた「海の正倉院」の扉は開き、その向こうに打る新りの真実が、いま明らかされる。

平成15年7月1日(火)〜9月15日(祝)

開館時間 午前9時〜午後6時(入館は午後5時)
観覧料 一般 800円・中学生 400円・小学生 200円
当日 一般 1000円・中学生 500円・小学生 300円

主催 宗ノ島大宝展実行委員会
後援 福岡県教育委員会、宗像市教育委員会、福岡県教育委員会、
津屋崎町教育委員会、大瀬村教育委員会、九州歴史資料館
協力 九州博物館、西日本新聞株式会社、
ヤマト運輸株式会社、毎日新聞社

お問い合わせ 宗像大社/電話 0940-62-1311(代)

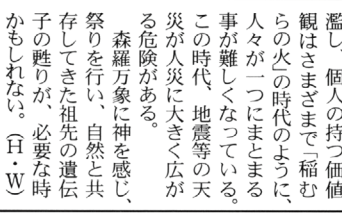
期 間
七月一日、
九月十五日
(無休)

開館時間
午前九時〜午後六時
(入館は午後五時)
三〇分まで

会 場
宗像大社神宝館

拝観料
当日
大人 一、〇〇〇円
中学生 五〇〇円
小学生 三〇〇円

割引料金
(十五名以上の団体、身障者・療育・シルバー手帳等所持者)
大人 八〇〇円
中学生 四〇〇円
小学生 二〇〇円

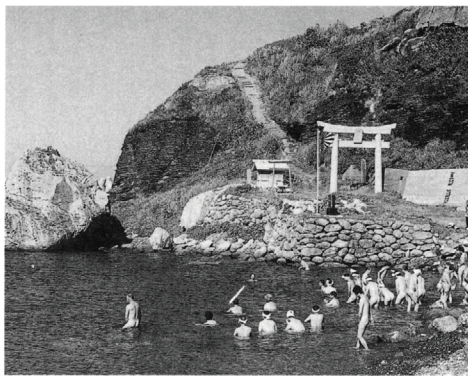


沖津宮現地大祭

年に一度の渡島参拝

年に一度、一般参拝者の渡島が許される「沖津宮現地大祭」が、五月二十七日沖ノ島で斎行された。

今から九十八年前の明治三十八年(一九〇五)五月二十七日沖ノ



海中で禊をする参列者

島近海で、我が国の命運を賭けた「日本海海戦」が行われ、日本兵一五〇人、ロシア兵四〇〇〇人の尊い命が海へと消えた。この祭典は日本が歴史的大勝利を収めた日(旧海軍記

念日)を卜して、年に一度全国から参拝者を公募して沖ノ島で行われている。

早稲田大学の吉村作治教授らが提唱し、近年「沖ノ島を中心とした宗像地域を世界遺産に」という動きなどが

夜は各自大島の民宿に宿泊参籠した。が、この時点で波高は三メートル、翌日の予報は三メートル後二、五メートルというのが、我々神職の正直な考えであった。

翌朝、雨は止み思った程風も無く、出港するか微妙であったが、先ず第七管区海上保安本部の「げんうん」が出港した。過去、途中で沖ノ島渡島は無理と判断され、引き返し中止になったことも度々あるが、判断は海上保安庁に委ねられた。

到着した参拝者から順次、全裸になり海中で禊をし心身を清めた後、原生林の生い茂る参道を、沖津宮本殿へと登った。

午前十時に現地大祭を齎行。御神前には全国各地の参拝者からの御神酒・奉献品が供えられ、神島宮司が国家・皇室の安泰、国民の幸福、そして日本海々戦で国のために命を

かけて戦い散った日露両国の兵士の慰霊・世界平和を祈る祝詞を奏上。次々に各代表者が玉串を捧げて、敬虔な祈りの中祭典は滞りなく終了した。

その後、一同波止場で沖・中両宮奉賛会、翼賛会、沖ノ島仲間の皆様により調理された刺身、煮魚、その煮汁で食べるソーメンに舌鼓を打ちながら、和やかな一時を過ごした。

正午、参加者は各船に乗り込み沖ノ島を一周、神秘的景観を拝しながら帰路についた。

一方、沖ノ島に渡島出来ない女性・子供は大島の沖津宮遥拝所の祭典に参列し、遥か沖ノ島に祈りを捧げた。今回は毎日新聞の記事者・カメラン、TB

S系のRKB毎日放送スタッフが同行取材したが、初めて沖ノ島にハイビジョンカメラを持ち込み撮影した。この現地大祭の様相も含め番組を制作するというが、ハイビジョンの美しい映像で沖ノ島の姿を心待ちにしている。

恒例の夏越祭が近づいてまいりました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための祈りを込めたお祭りであり、本年も左記により齎行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませ。御案内申し上げます。

六月吉日 宗像 大社 氏子各位 崇敬者 各位

今から九十八年前の明治三十八年(一九〇五)五月二十七日に行われた、日露戦争最大の海戦、この戦争で敗戦を重ねたロシアは、明治三十七年十月当時世界最強といわれたバルチック艦隊を、ウラジオストツク港に向けて出発させ、戦況回復を企てた。

東郷元帥率いる日本連合艦隊は、バルチック艦隊がウラジ

オストツク港に達する前に、対馬海峡の沖ノ島近海でこれを捕らえ、大激戦の末壊滅的打撃を与えた。この時東郷元帥は敵前回頭戦法(東郷夕三十七年十月当時世界最強といわれたバルチック艦隊を、ウラジオストツク港に向けて出発させ、戦況回復を企てた。

日本海々戦

「イン」という、画期的な海戦術で大勝利を収めた。この時霧が立ち込め視界が悪かったが、戦闘開始時には霧が突如晴れ視界が開けたという。



沖津宮現地大祭

元帥はこの神恩に感謝し、日露戦争後当社に同元帥の指揮された戦艦「三笠」の羅針盤を「神光照海」という揮毫を奉納された。現在でも当社神社宝物館で收藏している。

は当時戦争能力が限られていたと考え、この海戦の勝利を機にアメリカ政府に調停を依頼し、ポーツマス講和を表現させた。

御神前には全国各地の参拝者からの御神酒・奉献品が供えられ、神島宮司が国家・皇室の安泰、国民の幸福、そして日本海々戦で国のために命を

かけて戦い散った日露両国の兵士の慰霊・世界平和を祈る祝詞を奏上。次々に各代表者が玉串を捧げて、敬虔な祈りの中祭典は滞りなく終了した。

その後、一同波止場で沖・中両宮奉賛会、翼賛会、沖ノ島仲間の皆様により調理された刺身、煮魚、その煮汁で食べるソーメンに舌鼓を打ちながら、和やかな一時を過ごした。

正午、参加者は各船に乗り込み沖ノ島を一周、神秘的景観を拝しながら帰路についた。

恒例の夏越祭が近づいてまいりました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための祈りを込めたお祭りであり、本年も左記により齎行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませ。御案内申し上げます。

六月吉日 宗像 大社 氏子各位 崇敬者 各位

お知らせ 世界遺産パネル写真展

沖ノ島大宝蔵に合わせ、日本をはじめ世界各地の世界遺産の写真パネルを(社)日本ユネスコ協会連盟(東京都渋谷区)から借り受け、当神社祈願殿(二階ロビー)で展示致します。

展示品 写真パネル

- 世界各地の世界遺産 二十枚
- アテネのアクロポリス(ギリシア)
- ピサのドゥオモ広場(イタリア)
- フィリピン・コルデルラの棚田(フィリピン)
- カトマンズの谷(ネパール)
- マチュピチュの歴史地区(ペルー)等
- 日本各地の世界遺産 二十枚
- 法隆寺の歴史建造物(奈良県)
- 白川郷・五箇山の合掌造り集落(岐阜・富山県)
- 琉球王国のグスク及び関連遺産群(沖縄県)
- 白神山(青森・秋田県)
- 屋久島(鹿児島県)等

期間 七月一日〜九月十五日
時間 八時三〇分〜十八時三〇分
会場 祈願殿 二階ロビー
観覧料 無料



宗像大社形代について

一、七月三十一日 午後五時、大祓神事 引き続き 夏越祭齎行

当大社では、古く一千数百年前から、交通安全や身体安全を祈つて様々な人形・馬形・船形などがお供えされております。このことは、宗像大社が道主貴(あらゆる道に通じる最高神)として多くの人々から篤い崇敬を受けている永い歴史を物語るものであります。

六月吉日 宗像 大社 氏子各位 崇敬者 各位



宗像大社

第二十七回 宗像大社小倉百人一首

かるた大会



六月八・十五日の両日、第二十七回宗像大社小倉百人一首かるた大会(主催：宗像大社社団法人全日本かるた協会、主管：九州かるた協会、後援：宗像市教育委員会)が、当社で開催された。

三十一文字を綴る和歌は「万葉集」勅撰和歌集を基に、約千首とあるが、この中より中納言藤原家が選定した百首が「小倉百人一首」であり、この小倉百人一首を用いて競技されるのが「かるた大会」である。

当社では伝統文化の継承と青少年の情操教育の一環として、昭和五十一年からこのかるた大会が実施され、今回で二十七回目となった。

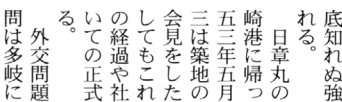
例年九州各県を中心に実力者が参加し、かるた競技の妙を競っているが、本年も九州各県は勿論、関西・関東からも集い、二二名と近年になく多くの参加者集った。選手宣誓は今回宗像大会に初めて参加したA級選手である、熊本県からの協会の所属の立山奨選手(二十一歳)が、選手宣誓をして開幕し、手に汗握る熱戦が繰り広げられた。

特に上級者で競うA級(四段以上三十二人)は実力が伯仲し、白熱した試合の末、九州かるた協会の益満亮子選手が優勝の栄誉を手に入れた。昨年、一昨年に広島県の選手が優勝していたので、九州から優勝者が出たのは二年振りになり、見学者全員から惜しみない拍手が送られた。

表彰式が終ると互いの健闘を称え合い、次の回の再会を誓い、大社を後にした。

各段・各級の成績は左記の通り。

- A級(三十二人)**
優勝 益満 亮子
(九州かるた協会)
準優勝 田畑 謙
(九州かるた協会)
三位 小松 洋樹
(宮崎県かるた協会)
三位 溝江 未知
(九州かるた協会)
- B級(三十九人)**
優勝 梅津 公美
(九州かるた協会)
準優勝 永田 美由紀
(熊本県かるた協会)
三位 今坂 友香
(熊本県かるた協会)
三位 下田 麻子
(九州かるた協会)
- C級(四十六人)**
優勝 林 由乃
(熊本県かるた協会)
準優勝 森山 絵里子
(九州かるた協会)
三位 井上 理香子
(九州かるた協会)
三位 下田 亜紗美
(熊本県かるた協会)
- D級(三十七人)**
優勝 田納 寿己
(大分県かるた協会)
準優勝 高野 真美
(熊本高校・熊本県)
優勝 中村 成美
(熊本西高校・熊本県)
準優勝 村上 務
(島根県かるた協会)
- 初心者級(六十人)**
中学生以上
優勝 城戸 理美
(熊本高校・熊本県)
準優勝 吉里 純香
(大分県かるた協会・大分県)
- 小学生**
優勝 森 智香子
(長与かるた会・長崎県)
準優勝 河野 雄介
(長与かるた会・長崎県)



決断力 その時昭和の経営者たちは

出光興産株式会社 出光 佐三 店主

「イラン石油を輸入」③ 瀧口 凡夫

巨利は「墮落の道」と戒め

イランのモサデク政権は一九五三年(昭和二十八年)八月、国王派のクーデターによって倒れた。日章丸による最初の石油積み出しから、わずか四ヵ月後であった。

出光の輸入はその後も条件を変更しながら続き、五七年二月まで(総量百六十万キロリットル)に達した。

出光はこの輸入で大きな利益をあげた。事業の面からみれば空前の大成功であった。人間、ここで有頂天になるのがふつうである。

しかし、佐三は違った。常人とはまったく違った反応を示した。このあたりに、どん底から立ちあがり、自分の主義主張を練りあげ、貫き通してきた人間の底知れぬ強さを感じられる。

日章丸の第一船が川崎港に帰った翌々日の五月十一日、佐三は築地の本社で記者会見をした。出光側としてもこれがこれまでの経過や方針についての正式の発表となった。

外交問題も含め、質問は多岐にわたった。

その中に「昭和の紀国屋文左衛門です」というのがあった。佐三はひと区切りつくと言った。

「さきほどとなたか、私を紀文になぞられたが見当はずれも甚だしい。ほめるつもりで言われたのだろうか、私は迷惑千万だ」

私国屋文左衛門は江戸中期の豪商、幕府御用達で巨万の富を積み上げたといわれた。晩年は落ちぶれたという。

佐三には映った。当時、新聞への寄稿で「おせんへの金をもうけることより起る会社の墮落は、出光の自決である」と書金もうけ、浮かれたと、こんどはナベ底の貧乏が待っている。パブルに目がくらんだ日本がいま、そこにあえていっている。

佐三はイラン問題が一段落十一月、支店長会議で訓示した。「慎み戒め、さらに練磨し鍛錬し、さらに団結して人間尊重の実を結ばねばならぬ。石油販売業を通じて国家社会に示唆を与えなければならぬ」

手紙が殺到していた。若い人たちからのものも多かった。

佐三は、さきに紹介した日本工業倶楽部での講演の中で、国内からの反応として「国民的信念の復興」を第一にあげている。

若い人たちが自信を持ってくれたのがいちばんうれしかった。

出光内部でいえば、この利益は「台風の卵が社内にくきたようなもの」「墮落への道」と、佐三には映った。

吾が家ののだろうか、燕や君子蘭など健康なときの心を慰められたもの達に迎えてくれた改め生命の尊さを知った作者である。



佐三 佐見記者会見

佐三は「私は違った。常人とはまったく違った反応を示した。このあたりに、どん底から立ちあがり、自分の主義主張を練りあげ、貫き通してきた人間の底知れぬ強さを感じられる。」

日章丸の第一船が川崎港に帰った翌々日の五月十一日、佐三は築地の本社で記者会見をした。出光側としてもこれがこれまでの経過や方針についての正式の発表となった。

外交問題も含め、質問は多岐にわたった。

その中に「昭和の紀国屋文左衛門です」というのがあった。佐三はひと区切りつくと言った。

「さきほどとなたか、私を紀文になぞられたが見当はずれも甚だしい。ほめるつもりで言われたのだろうか、私は迷惑千万だ」

私国屋文左衛門は江戸中期の豪商、幕府御用達で巨万の富を積み上げたといわれた。晩年は落ちぶれたという。

佐三には映った。当時、新聞への寄稿で「おせんへの金をもうけることより起る会社の墮落は、出光の自決である」と書金もうけ、浮かれたと、こんどはナベ底の貧乏が待っている。パブルに目がくらんだ日本がいま、そこにあえていっている。

佐三はイラン問題が一段落十一月、支店長会議で訓示した。「慎み戒め、さらに練磨し鍛錬し、さらに団結して人間尊重の実を結ばねばならぬ。石油販売業を通じて国家社会に示唆を与えなければならぬ」

手紙が殺到していた。若い人たちからのものも多かった。

佐三は、さきに紹介した日本工業倶楽部での講演の中で、国内からの反応として「国民的信念の復興」を第一にあげている。

若い人たちが自信を持ってくれたのがいちばんうれしかった。

出光内部でいえば、この利益は「台風の卵が社内にくきたようなもの」「墮落への道」と、佐三には映った。

吾が家ののだろうか、燕や君子蘭など健康なときの心を慰められたもの達に迎えてくれた改め生命の尊さを知った作者である。

第五〇三回 宗像大社歌会詠草

大野 展夫 選

毎月 25 日 夕 切

- 大井 木原ふさ子
内海にきやかに立つ潮の目に筏を引きて舟の近づく
- (評) 的確な描写により印象鮮明な一首となった。
- 吉留 高山 信子
假退院に帰り来し家つばくろは果作り君子蘭は咲きをり
- (評) 何ヶ月ぶりの吾が家ののだろうか、燕や君子蘭など健康なときの心を慰められたもの達に迎えてくれた改め生命の尊さを知った作者である。
- 池田 森 龍子
牡丹園の白磁の壺は置く欄に日脚伸びてきて丸く照り映ゆ
- (評) 「日脚伸び」は冬も終りごろになり、屋の時間が次第に長くなるのだが、冬が解放されたよるこびが牡丹園の壺を演出させたことにより倍加されている。
- 牟田尻 横山 雪子
草を引く吾の帽子の縁にのり降りする小さき蜘蛛よ
- (評) 小さき生命によせるやさしい心情が、通常は人などに付いて呼ぶかけを表す「よ」を蜘蛛に用いたところが
- に表現されている。草取りという労働があつてこそ生れた生命讃歌の歌である。
- 福間 香月 照子
そよ風がはこんでくれる木の匂ひ森の小道を歩いてみたり
- 福間 池浦千鶴子
血圧も糖尿も皆外の子学生らに追越された
- (評) 香月さんは木の匂ひに、池浦さんは女子学生に、触発されたかのように己の生命の衰えを詠い哀感がある。
- 日の里 石松 弘次
木曜の今日はサークルに娘が来ると食材揃え妻と調理す
- 田野 森 甲子
枝先は腐れつつも咲き盛る桜大樹はゆるぎもあらず
- 朝野 藤井 浩子
右左異なる麦の穂見つつゆくふとも麦刈りの過ぎし日思ふ
- 日の里 大和美由紀
雨去りし夕湖を廻る足許に小さき姿の井守歩めり
- 光岡 白土 凌一
初めてか車はうきうき吾は人の命あずかるこわさを覚ゆ

宗像大社歌会
俳句作品集四七〇
光岡 井上 嘉治
踏みしかな慌てて触
れし野のすみれ

日の里 花田いつ枝
それつきり鳴かぬ河
豚や閑深し

光岡 白土 凌一
吾嬉し今日の日より
五月晴
梅雨の晴心も楽し皆
嬉し

東郷 田中 憲象
藤波の乱れの中をか
がみ過く
福岡 森 清
カーブする電車代田
に眩しかり

東郷 宗風社俳句会
吉武 湧泉
一色のつつし緋に染
む能古の島
吉武 勇
老ひし身に老ふ夢も
なき朧の夜
吉田 杏子
青楓しほし微風に揺
れやまず

三浦美千代
軒先に燕の巣ある漁
師町
三浦 章子
幼等の手を合はせを
り原爆忌
田中 雨葉
水すまし足掻きあが
きて流される
田中クニ子
改札口出入り自由や
燕飛ぶ
木原 房子
玄関まで灯すが如くつ
つじの緋

次の寄物

177
いしい ただし

飛ばない巨鳥モアは西暦五〇〇年ごろは絶滅した。モアハンターの遺跡も、入植者達によって、その多くが破壊されてしまった。モアハンターが解体した骨は、さらに砕かれて埋められて消えていったのである。NZでは新しい発見と共に現状の確保に努めている。

クライストチャーチから、ダニーデンに移動した。ダニーデンでは車をレンタルしたという。

市街地の東に細長く突き出たオタゴ半島の先端にタイアゴア・ヘッドといわれるところがあり、「貴重な自然の宝庫」がある。そこにはアルバトロス(アホウドリ)の保護区やアザラシ、ペンギンの上陸する。そこに行くと、ロイヤルアルバトロスは羽を片けると、三、五メートルにもなる。海鳥の中で最も大きい空を見上げると、アルバトロスが飛んでいる。

話題の新車紹介 ③④

三菱「グランデイス」

五月十四日三菱が満を持して四代目となるシャリオ・グランデイス改め「グランデイス」を発表しました。近年日本車は飛躍的に発達した結果、使い勝手や経済性は飽和し、どの車を買っても間違いはないし、どの車を買ったからといって特別成功だということありません。そこで三菱は子供を乗せない時乗れるミニバンとして大人とわがママを前に購入前にチヨイスで「世界」のわがママというコン



セプトで、日本先行発売に踏み切りました。

①カスタマー フリーチヨイス
なんとと言ってもチヨイス(選択) することができ。コンパクトカー「コル」でも設定されているカスタマーフリーチヨイスにより、ボディカラーはなんと十色の中から選ぶことができ、インテリアカラーも四種の組み合わせから選ぶことができます。今までのミニバンにはなかった、自分好みの一台に仕上げるのが可能になりました。

②エンジン
二・四リットル可変カムMIVEC仕様の専用エンジンを開発することにより、最高ラックの超・低排出ガス三ツ星レベルを獲得しながら、最高出力は一六五psを発生しています。



③室内空間
三列シートをきちんと成立させるため、ロングホイールベースのプラットフォームを専用プラットフォーム、全長・全幅・全高のどれもが拡大、とくに全長は先代比で一〇五ミリ長く、それがそのまま一〇〇ミリを室内長に転化していますので、室内は以前にも増して広く感じています。

④快適シート
一列目が快適なのは当たり前ですが、今までのミニバンの二列目は雑でした。グランデイスの二列目シートは背もたれが勿論リクライニングし、座面が欧州車のように三段階に可変します。ひざの裏側あたりを最上段に設定できるはず。

⑤価格
スタンダードからスポーツXまでの四クラスで、それぞれに二WDと四WDを設定し、二〇八・三万円〜二七二・三万円となつていきます。

お問い合わせ先
九州三菱自動車販売株式会社 宗像営業所
宗像郡福岡町中央 一〇一〇一
☎(0944)四二二二三

見学の時間待って十八ほどがグループとなり、レインジャーと呼ばれるガイドに案内され監視小屋へ入った。

屋だが、またアホウドリの本物の頭骨や卵のレプリカも置いて、レインジャーはそれを使って説明をする。

帰りにアルバトロスコロニーの手前にベンギン(イェンギン)の「見学小屋」の上陸が見学できる場所があるというので行った。運良く最終ツアーに間にあった。ここは個人経営で、私の財産を投入して、保護活動をしている。まず小型バスで丘陵をこえ、バスを下りして、ベンギンが上陸する浜を一望できるところまで案内された。

監視小屋からは果が見え、親鳥が幼鳥に餌を与えている。監視小屋には一〇個ほど双眼鏡が置かれて、間近に見ることができ、狭い小産を投入して、保護活動をしている。まず小型バスで丘陵をこえ、バスを下りして、ベンギンが上陸する浜を一望できるところまで案内された。



内され、全体の説明をきいた。営業地の近くに聖澤のように掘られた通路があり、ところどころに10×20センチのぞき見するところがある。ガイドに誘導されながら見学していく。

レインジャーやガイドの説明は英語の苦手な私には分からないが、その話ぶりや態度に、動物たちに対する愛情や保護の姿勢が伝わってくるものがあった。

オタゴ半島の保護区まで海沿いの道路や浜を車窓から見ていたが人口も少なく、近くに人家もないせいもあるかも知れないがゴミが全く見られなかったのは驚きであった。

定してシートを倒せば国際線のビジネススクラス風のリラックスな姿勢が得られます。その名もリラックスシートです。また一列目のシート背後にはタンパ付きのテーブルが備わっており、実用性が高いです。

統一風土記
附録宗像郡上池田村の條、同拾遺十七同村の條等にも記述がある。

御祭神は埴安神、素盞鳴命、倉稻魂命、菅原大神、境内社は貴船神社(高麗神)、恵比須神社(事代主命・天神天皇)、金毘羅神社(天國主命)、三島神社(天山祇命・高麗神・少彦名命)。

もとは坂名山大字池田字前田という所に鎮座していたのを、大正十三年八月二十八日、大字池田字笠松へ移転された社で、池田全区の産土神である。

神郡宗像 末社めぐり

三十二 桑田若宮 (桑田神社)
池田若宮

菅原大神は、池田字笠松の無格社天満神社として、又素盞鳴命は、池田字那野無格社須賀神社、同字大王字無格社須賀神社、同字野田無格社須賀神社として、祭祀されていたのを、大正十三年八月二十八日許可を得て合祀、本社御祭神と同じに付き合霊の上、境内末社とし池田字笠松に移転、事代主神は字釣山、応

安命を桑田明神とし、字賀魂命を勝田明神という。この神、もとは別社であったものを、天和三年(一六八四)に合祀されたものとされる。併せて大正十三年八月に現在地に合祀された。

現在の鎮座地である笠松とは、伝教大師巡錫の折、笠を掛けられし所にて笠松といわれ、下石仏があり、また、宗像氏寄進の木製の瓶子二対(高さ一尺五寸・底経五寸五分)も残されている。古く、吉野期事目録にいう桑田若宮と同等で、祭禮を一つにするので、七十五末社或いは百八社のうちにいう池田若宮と同じ社であると考えられる。

境内は、平成の御大典記念事業として、本殿・拝殿の改修工事を中心に美しく整備され、社殿の一段下には広場が設けられて、その周囲は観覧席のようになっている。この場所では、現在も数多くの奉納行事が行われており、春秋の奉納少年剣道大会が特に有名な古社である。

